

おたふくかぜワクチン

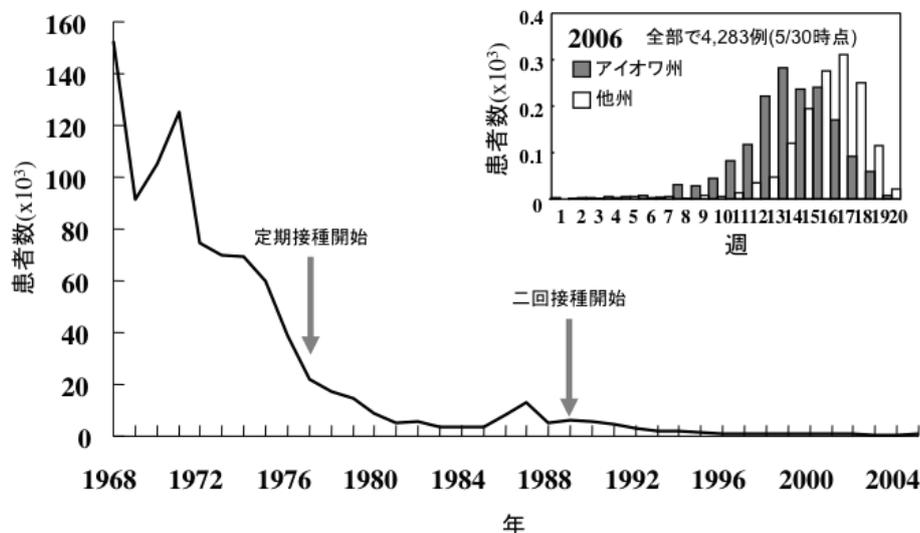
おたふくかぜ（＝流行性耳下腺炎＝ムンプス）ワクチンは、MR（＝麻しん風しん）ワクチン、水痘（＝みずぼうそう）ワクチンとともに、1歳を超えたらぜひ接種していただきたいワクチンです。

おたふくかぜってかかるの？

おたふくかぜは1年間で約18万人の発症があり(感染症情報センター 2010年定点把握：年別報告数より)、集団生活では必ず流行します。みずぼうそうほど重症化する率は高くありませんが、1～10%の患者さんで髄膜炎を合併します(髄膜炎の予後は良好とされています)。他には難聴が1000人に1人起こるという報告もされており、いったん難聴になると聞こえが戻ることはほとんどありません。

予防法はありますか？

米国では予防接種が始まってから、おたふくかぜにかかる人は激減し、死亡数も減っています(図)。WHO(世界保健機関)は先進国ではおたふくかぜワクチン、水痘ワクチンは定期接種化を推奨していますが、日本ではいまだ定期接種化されていないため、接種率は30%程度にとどまっています。



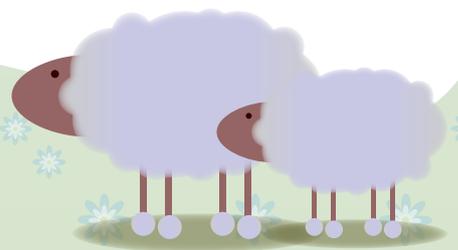
上図 米国のおたふくかぜ(流行性耳下腺炎)発生患者数

接種スケジュールは？

また、日本では1回接種となっていますが、多くの国では2回接種(国によって接種時期は様々)が行われています。1回の接種では十分な免疫ができない人がいるためです。

日本でも日本小児科学会は5～6歳で2回目の接種を推奨しています。いずれにしても世界標準で考えると2回接種がよいでしょう。

>> 裏面へ



地域	国数	1回接種	2回接種	使用国
アフリカ	46	0	2	2 (4%)
南北アメリカ	35	4	31	35 (100%)
東地中海	21	1	12	13 (57%)
ヨーロッパ	53	1	52	53 (100%)
東南アジア	11	2	0	2 (20%)
西太平洋	27	3	10	13 (19%)
全体	193	11	107	118 (61%)

(WHO Vaccine Preventable Diseases Monitoring System 2009 より)

上図 世界のおたふくかぜワクチン接種回数

	1回目	2回目
米国	1歳～1歳半	4～6歳
日本小児科学会の推奨	1歳～1歳半	5～6歳

ワクチンの副反応はありますか？

接種部位の痛みのほか、接種後10～14日で微熱や耳下腺腫脹（おたふくかぜの症状）が見られることがあります（1～2%）。おたふくかぜワクチンにより髄膜炎にかかる頻度は0.03～0.06%ですが、ワクチンを接種せずにおたふくかぜにかかった場合の髄膜炎の頻度は1～10%です。おたふくかぜの髄膜炎は予後良好ですが、ワクチンを接種しておたふくかぜにかからないようにするほうがずっと安全ということになります。

最後に

集団生活に入る前にぜひおたふくかぜワクチンを接種しましょう。

【参考文献】

おたふくかぜワクチンに関するファクトシート（厚生労働省・国立感染症研究所）
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000bx23-att/2r9852000000bybc.pdf>
 ムンプス難聴のお部屋

http://www.geocities.jp/mumps_deafness/

日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール（日本小児科学会）

http://www.jpeds.or.jp/saisin/saisin_110427.pdf

高嶋 能文



たかしま よしみ

高嶋 能文
 山梨医科大学卒
 日本小児科学会専門医
 日本血液学会血液専門医
 日本がん治療認定医
 日本性感染症学会会員
 日本エイズ学会会員

自由が丘メディカルプラザ 小児科

<http://www.jiyugaokamp.com/s>

TEL : 03-5731-3565

